

さくらのケムシ類へ
適用拡大

農林水産省登録
第23624号

環境省の公園街路樹等病害虫・
雑草管理マニュアル事例集Vol.2に掲載中

少量注入でケムシや吸汁性害虫を防除

殺虫剤／樹幹注入剤

ウッドスター[®]

環境省のマニュアル
掲載内容 (抜粋)



ジノテフラン液剤

ウッドスターの使い方
マニュアル動画配信中



直接注入する場合



補助器を使用して注入する場合



5mmの孔で
注入可能



株式会社 エムシー緑化

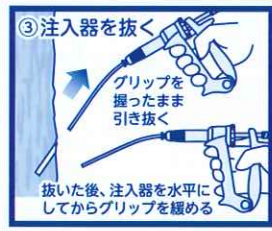
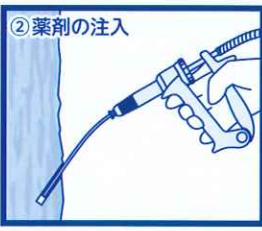


三井化学
グループ

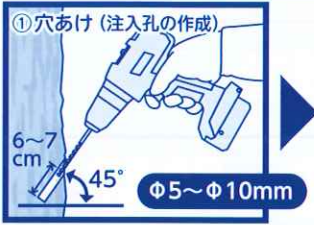
ウッドスター[®]はサンケイ化学機の登録商標です。

ウッドスターの使用方法

補助器を使わない場合



補助器を使う場合



ウッドスターの特長

優れた注入性

注入容器不要の微量注入剤
 作業の時間短縮・省力化

樹木への負担が小さい

安全性

薬液の飛散・環境流出がない

効果が長期間持続

適期処理で対象害虫の当年発生を抑制

広い殺虫スペクトル

適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
さくら	ケムシ類	胸高直径 6cm~10cm: 8~12ml 10cm~20cm: 12~24ml 20cm~30cm: 24~36ml 30cm~40cm: 36~48ml 40cm~50cm: 48~60ml 50cm~60cm: 60~72ml 以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	幼虫発生前 ~発生初期 但し 新葉展開後	3回 以内	樹幹 注入	5回以内
つばき類	チャドクガ	注入部直径 6cm~10cm: 2ml 10cm~20cm: 2~12ml 20cm~30cm: 12~18ml 30cm~40cm: 18~24ml 40cm~50cm: 24~30ml 50cm~60cm: 30~36ml 以降、直径が10cm増す毎に6mlを追加する	幼虫発生前 ~発生初期			5回以内 (株元灌注は2回以内)
プラタナス	プラタナスグンバイ	胸高直径 6cm~10cm: 2ml 10cm~20cm: 2~12ml 20cm~30cm: 12~18ml 30cm~40cm: 18~24ml 40cm~50cm: 24~30ml 50cm~60cm: 30~36ml 以降、直径が10cm増す毎に6mlを追加する	新葉展開後			5回以内

使用上の注意事項

- ◆他剤との混用はさけること。
- ◆樹幹の胸高直径または注入部直径が適用表に記載のない小径木や樹勢の弱った木、空洞や腐朽がある木、極端な老齢木には使用をさけること。
- ◆薬剤注入孔は、ドリル等を用いて注入部に斜め下方向に45度の角度で開けること。
- ◆対象木が二股以上に分かれている場合は薬剤が問題なく分散する様にそれぞれを1本の木と見なしして所定量を注入すること。
- ◆さくらに使用する場合は以下の内容に注意すること。
 ①薬剤の注入部位は主幹部の地上高50~100cm程度を標準とすること。②直径5~10mm、深さ6~7cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2mlを注入する。但し、注入孔直径10mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。③小径木に使用する場合は、専用の注入補助器を挿入し使用、若しくは所定量を2孔以上に分散させること。④落花直後や展葉初期には薬剤が分散しにくいので、落花終了後の新葉が十分に展開した後注入すること。⑤ケムシ類の幼虫発生前に注入することが望ましい。⑥花、葉、果実は食用に供しないこと。
- ◆つばき類に使用する場合は、以下の内容に注意すること。
 ①薬剤の注入部位は主幹部の地上高10~30cm程度を標準とすること。②直径5~7mm、深さ6~7cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2mlを注入する。但し、注入孔直径7mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。③小径木に使用する場合は、専用の注入補助器を使用、若しくは所定量を2孔以上に分散させること。
 ④チャドクガの幼虫発生前に注入することが望ましい。⑤種子は食用に供しないこと。
- ◆プラタナスに使用する場合は、以下の内容に注意すること。
 ①薬剤の注入部位は主幹部の地上高50~100cm程度を標準とすること。②直径5~7mm、深さ6~7cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2mlを注入する。但し、注入孔直径7mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
 ③小径木に使用する場合は、専用の注入補助器を挿入し使用、若しくは所定量を2孔以上に分散させること。
 ④落花直後や展葉初期には薬剤が分散しにくいので、落花終了後の新葉が十分に展開した後注入すること。
 ⑤ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 ・開花期はミツバチ等に影響を及ぼすおそれがあるので、落花終了後に使用すること。
 ・関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
 ・本剤は自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に薬剤が付着すると変色するおそれがあるので、ご注意ください。
 ・本剤の使用に当たって、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は林業関係機関、林業技術者等の指導を受けること。
 ・適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用すること。なお林業関係機関、林業技術者等の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- ◆街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- ◆直射日光を避け、食品と区別して、なるべく冷凍で子供の手が届かない場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所に置かないでください。

本印刷物は2017年7月11日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成しています

NIK-201707-T

【販売】